

# 【小施策評価(平成30年度実績評価)】

## 小施策の総合計画における位置付け

基本目標	1	人がいきいきと暮らすまちづくり	小施策 主管課等	河川課	
施策	8	安全・安心な暮らしの確保	評価 責任者	藤澤 誠	内線 3560
小施策	8-1	危険箇所の解消	評価 シート 作成者	清水 治	内線 3561

## 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
地震や大雨などによる自然災害から市民の生命、財産を守るため、河川整備や急傾斜地の対策事業を進め、危険箇所の解消を図る必要がある。		地震や水害などの自然災害に備えて、被害が最小限になるように、危険箇所の解消を進める。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市域		危険箇所が少なくなる。
市民		危険箇所の認識が高まる。

## 小施策の成果指標の達成状況・評価(平成30年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析
指標① 準用河川 河川整備率	%	↗	成果点	⇒	成果の要因分析
当初値 (H25) 74.6	R1目標値 75.3	R6目標値 75.8	・準用河川大葛川の改修工事に着手した。	⇒	・準用河川の整備については、予算と優先度を考慮し、大葛川の効率的な整備を進めた。
			問題点	⇒	問題の要因分析
			・河川整備率が増加していない。 ・大葛川以外の河川については、休工となっている。	⇒	・大葛川の工事については、着手したものの現場状況等から繰越工事となったため、平成30年度の整備率増加が図られなかった。 ・準用河川整備の予算確保が困難であり、また、整備については、各河川の状況により、内容・規模等の差異があることから、平準化した整備が困難である。
指標② 一級河川 南川整備率	%	↗	成果点	⇒	成果の要因分析
当初値 (H25) 29.5	R1目標値 30.7	R6目標値 33.4	・一級河川南川の整備が進んだ。	⇒	・予算を確保するとともに、現在、着手しているJR横断箇所について、鉄道事業者との調整を密に行なった。
			問題点	⇒	問題の要因分析
			・着実な整備実施を図るため、予算を確保する必要がある。 ・JR横断施工後(R4以降)の整備スケジュール等について、道明地区土地区画整理事業などの他事業実施者と調整し、整備を進める必要がある。	⇒	・予算については、国からの交付金及び県負担金により事業費の確保を図っている。 ・他事業スケジュール等について、明確となっていない部分がある。
指標③ 土砂災害ハザードマップの作成・配布済箇所	箇所	↗	成果点	⇒	成果の要因分析
当初値 (H25) 44	R1目標値 474	R6目標値 596	・県事業の急傾斜地崩壊対策事業の進捗が図られた。 ・土砂災害ハザードマップの作成、配布箇所が2箇所増加した。	⇒	・急傾斜地崩壊対策事業の事業費の一部を市が負担した。 ・ハザードマップの作成、配布について、地元調整を事前に実施した。
			問題点	⇒	問題の要因分析
			・急傾斜地崩壊対策事業の進捗が図られない地区がある。 ・土砂災害ハザードマップの作成、配布の前提となる土砂災害警戒区域等の指定が進んでいない。	⇒	・急傾斜地崩壊対策事業における、事業関係者の調整に時間を要している。 ・土砂災害警戒区域等の指定にかかる、地元説明会の開催等に時間を要している。

## 今後の方向性(令和元年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R1年度着手または着手予定 ☆…R2年度以降の着手を検討
★ 準用河川改良事業の各河川の施行状況を考慮し、予算内での配分や施工方法を検討して、効率的な事業の進捗を図る。	
★ 準用河川の効率的な整備進捗を図るため、計画的に設計を実施する。(広川)	
☆1 準用河川の効率的な整備進捗を図るため、計画的に設計を実施する。(下太田川)	
★ 都市基盤河川事業(南川)の交付金配分等について、統一要望等の機会を捉え、国・県に対して要望・調整等を行い、予算の確保を図る。	
☆1 他事業実施者との調整により、整備スケジュールの見直し等の検討を行い、事業を計画的に進めるため、南川の詳細設計を実施する。	
★ 急傾斜地崩壊対策事業については、進捗が図られるよう実施者の県に協力し、事業関係者への対応に取組むとともに、事業促進の要望を行っていく。	
★ 土砂災害警戒区域等の指定促進について県へ要望を行うとともに、指定にかかる説明会等の手続きが円滑に行われるよう、県への協力をを行い、指定後、早期のハザードマップ作成、配布に努める。	